

令和 2 年 9 月 10 日現在

機関番号： 24501

研究種目： 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間： 2016～2019

課題番号： 15KK0053

研究課題名（和文） Japanese Shakespeare in the New Millennium（国際共同研究強化）

研究課題名（英文） Japanese Shakespeare in the New Millennium(Fostering Joint International Research)

研究代表者

エグリントン みか (Eglinton, Mika)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号： 50632410

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

渡航期間： 7ヶ月

研究成果の概要（和文）： 受入研究機関であるロンドン大学に加えて、2018年10月末から国立台湾大学と師範大学、2019年3月末からニューヨーク市立大学大学院マーティン・シーガル演劇センターの客員研究員として所属し、これまで日本と英国を中心にしていたアジア・女性・シェイクスピアの関係性を比較検討し、異文化間の演劇表象をより多角的に考察した。

3年にわたる研究期間を統括するにあたり、雑誌論文2本、図書論文4本、国際学会における英語発表7本、翻訳と批評22本、合計35本を業績に挙げた。現在、英国のBloomsbury Pressから出版される宮城聡についての初の英語学術図書の執筆を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東西文化の交流と変容を多角的に捉える国際共同研究は、西洋=男、大人、主体、征服者、東洋=女、子供、他者、被征服者といった、時に暴力的な二項対立を見せるEdward Saidが提示したオリエンタリズム自体を批判的に継承した。演劇の現場とアカデミズムを結びつけながら、現在進行形ゆえに把握しにくい文化動向を如実に追った結果、グローバリゼーションに反比例して分裂が進む異文化理解にも貢献した。

研究成果の概要（英文）： During the three years research period, I conducted research in libraries and theatre archives, attending and sometimes working at international theatre productions and festivals as a visiting scholar at the University of London, National Taiwan University and City University of New York. As a result, I published 2 articles for academic journals and 4 articles for books; presented 7 papers in English at international conferences; translated 11 plays from English to Japanese as well as from Japanese to English; published 22 theatre reviews for English language newspapers such as the Japan Times and theatre magazines.

Based on these results, I am working on publishing the first English language monograph on Satoshi Miyagi for Bloomsbury Press's Shakespeare in Theatre Series.

研究分野： 舞台芸術 パフォーマンス

キーワード： シェイクスピア 日本 アジア オリエンタリズム オキシデンタリズム ポストコロニアリズム
フェミニズム 舞台芸術

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1 . 研究開始当初の背景

シェイクスピアの上演研究は、1960年代頃からシェイクスピア研究の傍系として、英米圏のジャーナリズムを中心に開始された分野である。初期の上演研究は、舞台写真や劇評などの言説を通して、「本場」英国の上演作品を記録として残すことにあった。1977年に出版された J.L.Styan の *The Shakespeare Revolution: Criticism and Performance in the Twentieth Century* は、それまで学問としては傍系として軽視されてきたシェイクスピア上演を研究に値するものとして論じた点においても革命的であった。1980年代頃からフェミニズムやポストコロニアリズム理論の影響を受け、シェイクスピアというアイコンが持つ家父長的、宗主国的、西洋中心主義的な権威を解体しようとする動きが顕著になった。研究対象はそれまで中心を成していた英国におけるシェイクスピアの舞台から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドといった英国以外の周辺の英語圏へ、さらに非英語圏のヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米、中東へと拡張していった。非英語圏のシェイクスピア上演に焦点を当てた Dennis Kennedy が編纂した *Foreign Shakespeare* (1993) を筆頭に、1990年代以降は、グローバル化が進む昨今の文脈において、個々のローカルな場から生まれる翻訳・翻案作品、あるいは異文化が接触する国際共同作品を、パフォーマンス研究の手法を援用し、グローバリズム、インターカルチュラルリズムといった視点から読み解くことが主流となっている。アジアや日本のシェイクスピアの上演研究も、こうした研究の一端を担っており、1991年に東京で開かれた非英語圏では初となる第5回世界シェイクスピア会議 (World Shakespeare Congress 以下WSC) を契機に注目を集め始めた。結果、1990年後半から *Shakespeare and the Japanese Stage* (1988), *Performing Shakespeare in Japan* (2001), *Shakespeare in Japan* (2005), *Shakespeare in Asia* (2010) などが続々と出版されている。加えて、2014年に Asian Shakespeare Association (ASA) の創設会議 'Shakespearean Journeys' が国立台湾大学で開かれ、カルカッタ、マニラ、アジア、2020年度はソウルと各国で2年毎に開催される運びとなっている。上記に見るように、非英語圏、特に日本を含むアジアのシェイクスピア上演研究は、過去30年弱で急速に発展した比較的新しい、故に開拓の余地が大いに残る領域である。

2 . 研究の目的

- 1) 非英語圏・非欧米圏に生きるアジア人、特に日本人が行う、多種多様なシェイクスピア作品の上演を英国の上演と比較し、西洋/東洋、ヨーロッパ/アジア、オクシデンタリズム/オリエンタリズムの定義と表象を再考する。
- 2) 「アジア」産シェイクスピア作品を複層の文化・社会的文脈の中から創造された異文化横断なものとして読み解くことにより、西洋男性中心主義が根強いシェイクスピア上演研究のパラダイムを、東と女の視点から軌道修正する(= 'Re-orienting')。
- 3) 現在進行形ゆえに把握し難い今世紀、未だ先行きの分からない2011年の3.11以降からBrexitにより揺れている日本と英国シェイクスピア翻訳・翻案作品に焦点を当て、「世界の鏡」とされる演劇が、如何に社会的トラウマを舞台に反映させたのかを考察する。

3 . 研究の方法

2016年3月から1週間、2017年12月から18年秋口まで受入研究機関であるロンドン大学を拠点に、エリザベス・シェイファー教授の下で国際共同研究の課題である Japanese Shakespeare

in the New Millennium を行った。結果、日本を中心としたアジアのシェイクスピアを、英国を中心としたヨーロッパに加え、日本の植民地であった台湾と英国から独立し日本を占領した米国での現地調査と共同研究を通して比較し、異文化間の演劇表象をより多角的に考察する必要性が生じた。2018年10月末から国立台湾大学と師範大学、2019年3月末からニューヨーク市立大学大学院マーティン・シーガル演劇センターの客員研究員として所属し、これまで日本と英国を中心にしてきたアジア・女性・シェイクスピアの関係性を比較検討し、異文化間の演劇表象をより多角的に考察した。特にニューヨークでは、市立図書館付属のパフォーミングアーツ・アーカイブを利用し、アジアにおける日本の位置性を問いながら、西洋と東洋の古典を舞台化してきた宮城聰演出作品がどのように受容されてきたのかを、他のアジア人アーティストと比べながらリサーチを行い、英国の Bloomsbury が出版している Shakespeare in the Theatre シリーズから出す単著の執筆を進めた。

最終年度には、ローマ第三大学で開かれたヨーロッパ・シェイクスピア協会にてセミナー 'Shakespeare on the Intercultural Edge: Adaptation, Translation, Acculturation and Hybrid Strategies' をリードし、ケンブリッジ大学が出版する学術雑誌 Theatre Research International に依頼された書評に加えて、ギリシャ悲劇やシェイクスピア翻案で知られる鈴木忠志が1982年に始めた日本初の世界演劇祭「利賀フェスティバル」についての The Japan Times への寄稿記事、世界の警察たるアメリカの中東政策を痛烈に批判したネイチャー・シアター・オブ・オクラホマとエンクナップグループによる『幸福の追求』のあいちトリエンナーレでの字幕翻訳の合計4本を業績に挙げた。

3年強にわたる研究期間を統括するにあたり、雑誌論文2本、図書論文4本、国際学会における英語発表7本、翻訳と批評22本、合計35本を業績に挙げた。

4. 研究成果

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① エグリントンみか、「「迷宮劇場に蠢く憑代たち」、『舞台芸術』21(2018) 194-96。
- ② Mika EGLINTON, "'Thou art translated": Remapping Hideki Noda and Satoshi Miyagi's A Midsummer Night's Dream in Post-March 11 Japan', Multicultural Shakespeare: Translation, Appropriation and Performance, 2016) 51-72. 査読付き

〔図書〕（計4件）

- ① エグリントンみか「野蛮なる新世界：『テンペスト』という帝国の言語、言語の帝国」、『言葉という謎 英米文学・文化のアポリア』新野緑、御輿哲也、吉川朗子編、大阪教育図書、2017年、23-140頁。
- ② Mika EGLINTON, 'Hideki Noda: dynamic director, A History of Japanese Theatre, Ed. Jonah Saltz, Cambridge University Press, 2016: 330.
- ③ Mika EGLINTON, 'Interlude: Asian energy versus European rationality: interview with Ninagawa Yukio', A History of Japanese Theatre, Ed. Jonah Saltz, Cambridge University Press, 2016: 532-35.
- ④ エグリントンみか「攪乱的女性身体：柿喰う客『女体シェイクスピア』試論」、松田幸子、笹山敬輔、姚紅編『パフォーマンスと異文化理解』春風社、2016年、413-40頁。

〔学会発表〕（計7件）

- ① Mika EGLINTON, Seminar convener, Shakespeare on the Intercultural Edge: Adaptation, Translation, Acculturation and Hybrid Strategies, European Shakespeare Research Association, Roma Tre University, 9-12 July 2019.
- ② Mika EGLINTON, 'Re-orientating Shakespeares in Asia' National Taiwan University, Invited Lecture, 8 March 2019
- ③ Mika EGLINTON, 'The Savage New World: The Empire of Language and the Language of Empire in Yamanote Jijosha's Tempest,' The 3rd biennial conference of the Asian Shakespeare Association 'Shakespeare, Traffics, Tropics' at the Ateneo de Manila University and the University of the Philippines Diliman. 30 May, 2018.
- ④ Mika EGLINTON, 'The Bard, Britain and Brexit', the 1st Symposia 'Shakespeare and British Culture since 1960', The 90th Annual Meeting of the English Literary Society of Japan, Tokyo Woman's Christian University, 18 May 2018.
- ⑤ Mika EGLINTON, 'Re-orientating Shakespeare in Asia', the 56rd Shakespeare Society of Japan, Kinki Univ. 7 Oct. 2017.
- ⑥ Mika EGLINTON, 'Othello re-oriented through Desdemona', 2017 ESRA Congress, Shakespeare and European Theatrical Cultures: Anatomizing Text and Stage, University of Gdansk, Gdansk Shakespeare Theatre, Polish Shakespeare Association, 27-30 July 2017.
- ⑦ Mika EGLINTON, 'Yukio Ninagawa as an Icon of Japanese Shakespeare', Armenian Shakespeare Society, Yerevan, Armenia Oct 2016. 'Japanese Shakespeare' and the Construction of the Nation State', World Shakespeare Congress 2016, Seminar: Transcultural Shakespeare: translation, performance and adaptation, Stratford-upon-Avon and London, UK, July-August 2016.

〔その他 計22件〕

映像/演劇公演の翻訳（計8件）

- ①エグリントン みか ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ + エクナップグループ 『幸福の追求』、あいちトリエンナーレ、名古屋市芸術創造センター(2019年8月3日-4日)字幕翻訳・操作。
- ②Mika EGLINTON and Andrew Eglinton, Trans. Mikuni Yanaiharu, Tragic Heroine, Asian Women Performing Arts Collectives, 2018, Hue, Vietnam.
- ③ Mika EGLINTON, Trans. Noda Hideki adapted, translated subtitles for Noda Hideki's A Midsummer's Night Dream at the F/T Nov. 2016 the Shizuoka Performing Arts Centre, Shizuoka, Feb-March 2017, (directed by Satoshi Miyagi), A|S|I|A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a-web.org (2017) .
- ④ エグリントンみか翻訳、ハイナー・ゲッベルス×アンサンブル・モデルン 『Black on White』 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017、京都芸術劇場春秋座(2017年10月27-28日) 字幕翻訳・操作
- ⑤ エグリントンみか翻訳、ジゼル・ヴィエンヌ構成・演出、デニス・クーパー作 『腹話術師たち、口角泡を飛ばす』、静岡芸術劇場(2017年5月6-7日)、京都芸術劇場春秋座(2017年5月11-12日)、字幕翻訳・操作、『舞台芸術』21(2018年)176-193。
- ⑥エグリントンみか翻訳、キム・スンヒ「写真美術館はなぜ、必要か?」、『東京都写真美術館2016 年度紀要』(2017年)39-44。

- ⑦エグリントンみか翻訳、ドミニク・コンザレス・フォルステル 『ヴェラとハイド氏』、『マラス』、『リオ』、『オテロ1887』、『ベルリンのローラ・モンテス』、映画字幕、岡山芸術交流・Okayama Arts Summit (2016年10月9日-11月27日)。
- ⑧エグリントンみか翻訳、森村泰昌・ドミニク・コンザレス・フォルステル「往復書簡」、公式カタログ『自画像の美術史：私がわたしと出会う時』国立国際美術館 (2016年4月5日-6月19日)171-72。

演劇批評・日本語 演劇批評、公演プログラム、インタビューなど
(主要なもの 抜粋 計14件)

- ①Book review, Daniel John Gallimore, Tsubouchi Shoyo's Shinkyoku Urashima and the Wagnerian Moment in Meiji Japan. Lewiston: Edwin Mellen Press, 2016. Pp. 216. Theatre Research International, Volume 44 Issue 3, 323-24 (Cambridge University Press: 2019 <http://dx.doi.org/10.1017/S0307883319000440>)
- ②Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'The Theatre Olympics goes back to its roots for ninth iteration' The Japan Times, Aug 13, 2019.
- ③ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, "Contemporary dance festival puts modern 'Genji' front and center", The Japan Times, Feb 20, 2018.
- ④Mika EGLINTON, "Juliet Knapp: A life of heatrical management." The Japan Times. Feb 10, 2018.
- ⑤ エグリントンみか、「コミュニタス・サリハラ：インドネシア現代芸術の最先端」『シアターガイド』2017年11月、154-56頁。
- ⑥ エグリントンみか、「サン・アートに見る社会主義国家ベトナムにおける芸術的政治学」芸術公社シーン / アジア<http://scene-asia.com/ja/archives/831> 2017年7月
- ⑦ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'The ambiguous world of today's ventriloquists', The Japan Times, 27 Apr. 2017.
- ⑧ エグリントンみか、「蜷川幸雄インタビュー 日本演劇の半世紀、現在、未来」、『シアターアーツ』61号(2017年春号)50-55頁。
- ⑨ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'T-C-T and TPAM set to offer a hot winter's feast of the arts', The Japan Times, Jan. 2017.
- ⑩ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'Ong's spellbinding take on Richard III', The Japan Times, 23 Nov. 2016.
- ⑪ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'Kyoto Experiment festival revels in breaking barriers', The Japan Times, 25 Oct. 2016.
- ⑫ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'Ishinha set for stunning final show', The Japan Times, 27 Sep. 2016.
- ⑬ エグリントンみか、「シンガポール演劇の今」、『シアターガイド』2016年9月、154-56頁。
- ⑭ Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'Young dramatists mark the Bard's anniversary in style', The Japan Times, 26 April 2016.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 エグリントン みか	4. 巻 -
2. 論文標題 「女×アジア×舞台芸術」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kyoto Experiment 2018	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ジゼル・ヴィエンヌ構成・演出、デニス・クーパー作、エグリントン みか翻訳	4. 巻 21
2. 論文標題 『腹話術師たち、口角泡を飛ばす』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『舞台芸術』	6. 最初と最後の頁 176-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 エグリントン みか	4. 巻 21
2. 論文標題 「迷宮劇場に蠢く憑代たち」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『舞台芸術』	6. 最初と最後の頁 194-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 'The Bard, Britain and Brexit', the 1st Symposia 'Shakespeare and British Culture since 1960'
3. 学会等名 The 90th Annual Meeting of the English Literary Society of Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 'The Savage New World: The Empire of Language and the Language of Empire'
3. 学会等名 The 3rd biennial conference of the Asian Shakespeare Association ' Shakespeare, Traffics, Tropics' (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 "To make me slave to it": the divisive empire of language in Yamanote Jijosha 's The Tempest"
3. 学会等名 Armenian Shakespeare Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 'Re-orientating Shakespeares in Asia'
3. 学会等名 Association of Foreign Languages and Literature of the National Taiwan University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	シェイファー リズ (Schafer Liz)	ロンドン大学・ローヤルホロウェイ校・教授	